

産業発展論（川 端）演習

1 テーマ 世界と日本を動かす産業のダイナミズムを分析する

2 テキスト 未定ですが、まず産業研究の方法と現代経済について学びます。決まり次第ウェブで発表します。

3 趣 旨

産業分析ができるようになって卒業しよう：①産業分析の問題意識、思考と表現の方法を身につける演習を行います。調べて、考え、議論して、その結果をレポートや論文に表現することは、就職する業種を問わず、社会人にとって必要な能力です。②グローバルな産業動態を学ぶことと、東北地方の産業を調査することの二つが柱となります。

4 募集人員 4月進級者、編入学生、10月進級者あわせて10名

5 参加条件

①世界と日本の情勢に敏感であることが何より必要です。②無断欠席絶対不可。③ワード、エクセル、パワーポイント、パソコンの email を使います。ゼミに入ってから練習してもまにあいます。④川端担当年度の「企業論」も受講してください。⑤経済数学は必要ありません。⑥当ゼミは経済学ベースですが、経営学と重複する部分も少なくありません。

6 選考方法（4月進級予定者）

第1, 2次募集では、9名まで無条件で受け入れます。9名を超えたときだけ選抜を行います。第3希望は、個別に面談を行います。

7 運営方針

*ゼミでは徹底して議論します。①事実関係をよく調べるのが何より大事です。②ミクロ・マクロ経済学、マルクス経済学、経営学のどれでもいいですから、一つは基礎理論を頭に入れて、議論に使えるように努力してください。

*ゼミの内容は、①テキスト輪読。レポーターが報告し、全員で議論。②各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論。③セミナー・旅行とその企画会議、が中心です。

*調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に掲載します。発行記録はホームページを参照。学生の研究計画に書籍・機材等を支援します。

*前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を行っています。テーマは「ベンチャー創業セミナー」、「日本経済・再生への道程」など。卒業生の講演や仕事の経験を聞いて交流できます。

*自動車、鉄鋼、食品、電力、ベンチャーキャピタルなど様々な企業を年1回以上見学します。昨年は味の素、日産自動車、東京電力でした。

8 担当教員の主要な研究業績

①著書：(単著)『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年。(大野健一との共編著)『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年。③実践的研究：国際協力機構(JICA)のベトナム市場経済化支援プロジェクト、中国でのCDMプロジェクトの設計などに参加。

9 指導教員が薦める本 2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。最近使ったゼミテキストは、天野倫文『東アジアの国際分業と日本企業』有斐閣、2005年。塩地洋編著『東アジア優位産業の競争力』ミネルヴァ書房、2008年、です。

10 「ゼミ見学」の可否 歓迎。金曜日14時40分に来てください。場所は後期になってから発表された時間割表を参照。途中退室・入室も可とします。

11 10月進級者に対する特記事項 なし。

12 その他

ウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの予想される内容を比較してみてください。GoogleかYahooで教員名を検索するか、学部のページの「教員紹介」から入ってください。また、メールによる問い合わせはkawabata@econ.tohoku.ac.jpで受け付けます。

昨年度の演習論文テーマは、「日本自動車メーカーの海外現地調達に伴う調達慣行」、「出版物の流通構造は現状に適しているのか」、「家庭用ゲーム機産業の寡占間競争と市場活性化」でした。

就職先実績はメーカー(自動車、重機、鉄鋼、素材、化学、エレクトロニクス)、金融・証券、不動産、テレビ局、コンサル、公務員など多岐にわたっています。

現在のゼミ生は9名(4年生3、3年生6)。ゼミ生の懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

揺れ動く世界と日本を、いっしょに見つめましょう。